

第3章 柳川市観光の現状と課題

1. 柳川市の概要

本市は、福岡県南部、筑後地方の南西部に位置し、筑後地方の主要都市の1つです。福岡市から南に約50km、久留米市から南に約20km、大牟田市から北に約15kmの距離にありますが、福岡市から西鉄天神大牟田線で約45分、久留米市、大牟田市から同線で約15分でアクセスできます。

本市の大部分は、古くから開拓・干拓された干拓地が鱗（うろこ）状に広がる海面干拓地帯で、標高が0～3.5mの平坦な低地となっており、0度から3度の緩やかな傾斜で有明海に向かって広がっています。有明海は、干満差が最大6mに達し、干潮時には広大な干潟が現れます。市全体が平坦な地形であり、元々水が充分にある地域ではなかったため、先人の知恵と技術によって市全域に総延長およそ930kmにも及ぶ大小の掘割が網目のように巡る独特の風景が築かれています。

産業は、豊かな自然の恵みを筑後平野と有明海から受けた農漁業が基幹で、穀倉地帯としての米、麦、大豆のほか、全国ブランドの「博多ナス」やイチゴの「博多あまおう」、巨峰などが栽培されています。漁業では有明海の利用した支柱式による「ノリ養殖」が盛んに行われており、製品の海苔（乾のり）は市場でも高い評価を受け、日本一の高級海苔の産地となっています。他にも有明海固有のムツゴロウやクチゾコ（舌平目）、アサリ、タイラギなどといった多種多様な魚介類が生息しています。

2. 柳川市の観光資源

観光の“光”となるものには、風物（景色、季節を表すもの、生活に関係があるもの）、産物（産出されるもの）、人物（郷土ゆかりの人）があると言われます。本市の風物では、社寺、まち並み、掘割、干拓など、往時の歴史を偲ぶ文化遺産や貴重な動植物が生息する豊かな自然があります。産物では、恵まれた自然の幸を生かした特産品・名産品があります。人物では、国造りに大きな働きをした立花宗茂と田中吉政、そして北原白秋などの文人が挙げられます。本市には、光となるこれらの資源が数多くありますが、これらを「柳川百選」^(注1)を中心にまとめました。

【柳川百選 大切にしたいもの 残したいもの】

区分	テーマ	地域資源・財産	内容
風物	宝の海・有明海	干潟に沈む夕日	有明海の干潮によって広大な潟が創り出され、そこに映る夕日の光景は絶景です。
"		ノリ船の出船・入船	ノリ船が豊漁を願い有明海に向けて出港する勇ましい姿は柳川ならではの風景です。
"		ノリひび	秋に海面を覆うように広がるノリ養殖のための支柱の林立は柳川ならではの風景です。
"		くもてだな 蜘蛛手棚	四つ手網とも呼ばれ、竹竿を組んで網を張り、支柱の先端に結わえ付けた縄を上げ下げして小魚などを取る昔からの漁法で、有明海らしい海辺の景観としてもよく紹介されています。
"		潮干狩り	有明海の日本一の干満の差によってできる広大で肥沃な干潟を利用して行われます。
"		干拓堤防の景観	市内南部で見られる干拓のために築かれた堤防跡とその周辺の集落や田園地帯を横切るグリーンベルトとなっている風景は、干拓地ならではの景観です。
"		二丁井樋 <small>いび</small> と船溜り	二丁井樋周辺は、昔ながらの港町の面影が残っています。
"		有明海佐賀福岡両県漁場境界標石柱と永松荒籠 <small>あらかご</small>	筑後川河口の両県の陸地に建てられた2つの同文の石碑。平成17(2005)年に水産庁の「未来に残したい漁業漁村の歴史文化財産百選」に選ばれました。
"		中島朝市	大和町中島の大徳商店街の通りで毎朝行われる自由市場は、江戸時代から続くといわれる名物の朝市で、有明海の海の幸と地元産の新鮮な大地の恵みを買うことができます。
産物		有明海の幸	魚類約130種、貝類約30種が生息している魚介類の宝庫。有明海産のワケ、メカジャ、クチゾコ、シヤツパなどは郷土料理として親しまれています。
風物	掘割の巡るまち	川下り	情緒ある景色を眺めながら、ゆったりとした時間を過ごすことができます。
"		すきさきどい 鋤崎土居	柳川城の惣外堀に沿って築かれた東方の城郭防衛の最前線だったところです。
"		城堀水門	柳川城内に入る水門として城の防御用に築城された重厚な石積みの門です。
"		水中庭園	掘割を池のように見立て、お座敷のある建物の対岸につくられた水中庭園が残っています。
"		並倉	大正時代に建てられた柳川特産の味噌の製造工場です。
"		くみず <small>(くみば)</small> 汲水場	掘割沿いに見られる汲水場は、昭和の初期までは飲み水を汲んだり、顔を洗ったり、実際の生活に利用されていた日常生活の場でした。
"		水辺の散歩道 (日本の道百選)	川下り内堀コース沿いに整備された遊歩道。昭和61年に国土交通省の「日本の道百選」に選定されました。

風物		弥兵衛門橋	柳川城三の丸に入る北の門の橋だったところで、上流からの水を滞留させ緩やかに下流域に浸す「もたせ」の働きをしていました。
"		出逢い橋付近	水と緑の情緒あふれる水郷柳川の代表的な景観です。
"		殿の倉	柳川藩主であった立花家に伝わる大名道具を展示する資料館です。
"		沖端の船着場	川下りの終点・下船場で白秋の生まれた港町・沖端の中心地にあります。
"	城下町の名残	御花と松濤園	柳川藩主立花家の別邸として建てられたもので、庭園は、日本三景の一つである松島を形どって造られたといわれ、昭和 53 (1978) 年には国の名勝に指定されています。
"		池泉式庭園を持つ武家屋敷	九州でも特異な、掘割と一体となる水系をなす池泉を持った庭園のある武家屋敷です。
"		旧戸島家住宅と庭園	文政 11 (1828) 年に建てられ、その後柳川藩の茶室として使われていた数奇屋風の茅葺屋根の住宅です。
"		十時邸	屋敷地と建物が一体的に保存され、旧戸島家住宅と並び柳川地方の武家屋敷の典型例です。
"		袋小路と渡辺家住宅	城下町東部に残る数少ない武家屋敷である渡辺家住宅と袋町の生垣が造り出す一角は、往時の柳川の小路を偲ばせます。
"		町家の家並み	江戸時代から近代にかけて建てられた町家がわずかながら残っています。
"		柳川城址	柳城中学校校庭の一隅に、石積みの小高い丘がありますが、ここは柳川城の天守閣の跡です。その東側の柳川高校は本丸と二の丸の跡になります。
"	白秋の思ひ出	白秋生家	白秋の著書や遺品が展示され、在りし日の白秋に思いを馳せることができます。
"		白秋道路	白秋が中学伝習館に通ったといわれる道で、屈曲した道路が掘割沿いに走っており、白秋の詩歌を生んだ詩情豊かな散歩道です。
"		白秋詩碑苑	白秋の母校・矢留小学校に隣接して建てられている詩碑は、市内に多く見られる文学碑の中でも最も古いものです。
"		松月文人館	北原白秋、野田宇太郎、劉寒吉をはじめとする多くの文人達の残した色紙、書簡、写真等が展示されています。
"		白秋祭（水上パレード）	白秋の命日 11 月 2 日には、白秋詩碑苑では式典が行われます。小中高校生の献詩の表彰や「帰去来」の合唱で、偉大な詩人を偲びます。また、この日はさんだ前後 3 日間、川下りコースでは、ほおずき提灯やアンドンで飾られた百数十隻のどんこ舟に約 2,000 人が乗り込み夕闇の掘割を下る、水上パレードが開催されます。
"	昔ながらの自然	オグラコウホネ群生地	水中に生育する多年草で、初夏から秋にかけて黄色い小さな花を咲かせる希少な植物です。
"		二ツ川とべんちょこ	沖端川を水源とする二ツ川は、水産 1 級としての利

風物			水水質に適合している清流であり、各種のタナゴ類やイバラモなど、動植物が多種多様に生息しています。
"		メダケの藪 (農村部の風景)	現在は、蒲池地区や川北地区にわずかに残っていますが、景観上のアクセントになっています。
"		沖端川と 水辺のヨシ類	沖端川や塩塚川の川岸には、ヨシ類がうっそうと繁っている昔ながらの風景が残っています。
"		カササギ	国の天然記念物にも指定されており、柳川の点景としてなくてはならぬ大切な鳥です。
"	市内の 神社仏閣	ふくごんじ 福厳寺	立花家の菩提寺で、天正 15(1587)年、立花宗茂が岳父戸次道雪の菩提を弔うため建立したお寺です。
"		たいしょういん 台照院	日蓮宗のお寺で、立花家や藩の重臣と縁のあるお寺です。
"		てんそうじ 天叟寺	臨済宗妙心寺派のお寺で、柳川藩主・立花宗茂の実父で、大友家の武将高橋紹運の菩提寺です。
"		りょうせいじ 良清寺	初代柳川藩主・立花宗茂の正室間千代(ぎんちよ)の菩提寺です。
"		さいほうじ 西方寺	足利将軍家の子孫・足利安芸守政信改め慶信の開山による由緒あるお寺です。
"		しんしょうじ 真勝寺	延徳年間(1489~1491)創建といわれる古い歴史を持つお寺で、藩政期には真宗大谷派の触頭として栄えました。柳川の国づくりに大きな業績を残した田中吉政の菩提寺として有名です。
"		そうきゅうじ 崇久寺	創立年代は不明ですが、後醍醐天皇の勅願寺で、かつては寺域 4 町の大伽藍だったといわれている古寺です。
"		日吉神社	正応 3(1290)年、近江国坂本の日吉神社の分霊を移したのが起源といわれており、蒲池氏が柳川城を築いて以来この地の鎮護の神として、田中吉政や立花宗茂をはじめ、歴代藩主の信仰も篤く栄えてきた神社です。
"		鷹尾神社	平安時代の貞観 11(869)年の創建と伝えられる南筑後有数の社で、応神天皇・仲哀天皇・神功皇后を祭神とし、古くから瀬高下庄の鎮守だった歴史ある神社です。
"		棚倉稲荷神社	京町の商店街の中にあり、数々の戦勝・庇護をもたらす神として、戸次道雪以来代々立花家で厚く信仰された稲荷明神が祀られています。立花宗茂が福島県棚倉の領主であった時も、同地で祀られたことから「棚倉稲荷」と称されました。
"		二宮神社	肥前の龍造寺氏に滅ぼされた蒲池氏の霊を慰めるために建てられたといわれる神社です。
"		矢留の大神宮	矢留の大神宮は沖端の氏神様ですが、この地に伝わる六騎の物語とも深い関係があります。
"		天満神社	この神社に藩の御用絵師の仙蝶齊素峰の作である奏楽天と龍の天井絵が残されています。
"		三柱神社	文政 9(1826)年、9 代藩主鑑賢(あきかた)の創建によるもので、戸次道雪、立花宗茂、間千代姫を祀り、杜名もこれに由来しています。

風物		島田天満宮	享保年間(1716~1735)に太宰府天満宮から分祀されたといわれ、古くからけいれん、ひきつけなどにご利益があると名高い神社です。
"		海童神社	当地出身の第10代横綱・雲龍久吉に関する史跡が残されています。
"	歴史を語る名所	柳川の碑	柳川の地名発祥の碑です。
"		三嶋神社と肥前鳥居	天治2(1125)年に勧請といわれる古い神社です。当時の建物は残っていませんが、参道から西方約200mのところ孤立して立つ石造の鳥居は、筑後地方における肥前型鳥居の典型例として貴重なものです。
"		因福寺の石造物	鷹ノ尾の因福寺には、六地藏、宝篋印塔(ほうきょういんとう)など、多くの貴重な石造物が残されています。
"		慶長本土居跡と江越八幡海岸灯台	約400年前、田中吉政が現在の大川市新田からみやま市高田町渡瀬まで有明海岸に築いた防潮用堤防跡で、総延長32Kmにも及び、領内整備に力を入れていたことが窺える史跡です。
"		地福寺の石造物	高畑の地福寺には、六地藏の石塔や宝篋印塔、八体の仏様と蓮台が刻まれている板碑など、歴史を語る貴重な石造物が残っています。
"		柳川城 <small>そとくるわ</small> 外曲輪土居	新町から今古賀の塩塚川まで続く、柳川城の一番外側の土塁跡です。
"		米多比 <small>ねたみずみ</small> 隅	旧柳川藩士・米多比氏の旧屋敷の隅にあった柳川城の土塁跡で、樹木の鬱蒼とした様子は、江戸時代当時の景観をそのまま残しています。
"		磯鳥堰	沖端川の磯鳥堰は、昭代や大川市新田に農業用水を供給する太田川に取水するための堰です。
"		萩の記念碑	「清流と月と萩」の名所として大切な場所です。
"		二ツ川水門	沖端川の水を二ツ川へ引き込む水門で、現在も昔と同じ姿で二ツ川の流れを支えています。
"		一里石 (街道のあと)	城下町であった柳川は、柳川街道(柳川から久留米までの道路)の外にも肥前街道や三池街道など多くの街道が集まり、往時を偲ばせる史跡もいくつか残されています。
"		柳川街道(田中道)跡	柳川城下町の玄関口であった保加町橋付近には当時の道幅のまま狭い路地が残されています。田中吉政により整備されたため、別名・田中道とも呼ばれます。
"		三忠苑 <small>あんどうせいあん</small> (安東省菴の墓)	「海西の巨儒」と称され、柳川藩儒学の基礎を築いた安東省菴の墓が、旭町浄華寺の墓地の一角にあり、その墓は昭和33(1958)年に県の史跡に指定されています。
"		長命寺の仁王像	元禄8(1695)年に仏師の東伝基が制作したもので、柳川ではあまり見られない“阿吽(あうん)”の仁王像です。
"		宮川温州園	現在、早生温州みかんの一種として広く普及してい

風物		(顕彰碑)	る「宮川早生」の原木の発祥地で、顕彰碑が建立されています。
"		教育会館	柳河小学校の敷地内にある 2 階建ての堅牢な建物は、昭和 7(1932)年に建設された柳川山門三池教育会の事務所です。
風物 産物		目野酒造	筑後地方には昔からたくさんの造り酒屋がありましたが、市内では唯一その伝統を伝えています。創業明治 23(1890)年の老舗で、その外観・建物も明治時代の風情が残っています。
風物		立花いこいの森(中山農事試験場跡)	明治 19(1886)年、立花寛治によって開かれた中山農事試験場は、その昔全国的にも有名な、そして私立としては日本で最初の農事試験場でした。現在は、閑静な公園として整備されています。
"		市内の城跡	現在城の痕跡はほとんど残っていませんが、城跡には記念碑や案内板が建てられ、それぞれの地域で大事に語り継がれています。
"		蒲池城跡之碑	戦国時代に筑後地方南部一帯を治めていた蒲池氏の居城で、現在では、城跡などは残っていませんが、崇久寺の北西近くに記念碑が建てられています。
"		蒲池氏百八人塚	塩塚城落城の際に自決したといわれている蒲池鎮連夫人の玉鶴姫ら 108 人を祀ったものです。
"		白鳥古戦場跡	筑後に侵出してきた肥前の龍造寺氏と柳川山門の領主たちとの激戦が繰り広げられたところと伝えられています。
"	四季を彩る 名所	柁島菖蒲園	川下りコース沿いにある花菖蒲園は川下りの見所のひとつで、5 月下旬から 6 月上旬にかけて、数万株の花が咲きそろいます。
"		梅の木街道	延々と続く梅の木の数に圧倒され、春になるときれいな花を咲かせて見る者を和ませ、干拓地の歴史に思いを馳せることもできます。
"		ひまわり園	有明海に近い干拓地・橋本開の広大な土地を利用して、夏の柳川を飾る 30 万本の大輪のひまわりが植えられています。
"		弁天の桜並木	大和町皿垣開の弁天にある桜並木は、この地の干拓の歴史を後世に伝える干拓堤防沿いにあります。
"		中山の大藤	江戸時代に地元の酒屋の『萬さん』が、大阪の野田のフジの種を持ち帰り植えたといわれていますので、地元の保存会の人たちの手で大切に育てられ、昭和 52(1977)年には福岡県の天然記念物に指定された名木です。
"	市内の祭り	ひな祭り (さげもんめぐり)	柳川地方のひな祭りは、ひな壇といっしょに「さげもん」と呼ばれる吊りびなを飾るのが特徴です。毎年ひな祭りの時期は「柳川雛祭り さげもんめぐり」が開催され、市内の随所で華やかなひな飾りを見ることができます。
"		風流	鉦や太鼓を鳴らしながら舞や踊りを神に捧げるお祭りで、市内各地で行われています。
"		鷹尾神社の沖祭り	有明海の沖洲に竹やヨシで祭壇をつくり、海上の安

風物			全と豊漁を祈願する鷹尾神社のお祭りです。
"		いちまんどう 菅萬度	江戸時代から続いているといわれている無病息災を祈願する行事です。
"		沖端水天宮祭 (舟舞台囃子)	毎年5月3,4,5日に行われますが、その最大の見ものは、水天宮横の掘割に浮かべた舟舞台上のお囃子が奉納演奏される舟舞台囃子です。
"		中島祇園	毎年7月の第4土曜日に行われる中島八剣神社の祇園祭は、市内を代表する夏祭りです。
"		有明海花火フェスタ	両開のむつごろうランド周辺で行われる花火大会で、有明海を彩る数千発の打ち上げ花火をはじめ、ギネスブックにも認定された名物ナイアガラ迫力は圧巻です。
"		崩道祇園祭の大蛇	崩道の観音堂で行われる祇園祭では、地元の子どもの手で雌雄一対の大蛇が作られます。
"		「おにぎえ」と 「どろつくどん」	三柱神社秋の大祭はこの地方最大の秋祭りで、山車(おどり山、どろつくどん)が町中に繰り出し、夜遅くまで賑わいます。「どろつくどん」は県の無形民俗文化財にも指定されています。
"		ほんげんぎょう	1年の無病息災を願い、その年の吉凶を占う正月行事で、わらや竹、正月の飾りなど組んだ櫓に火を付け、みんなで見守ります。
"		堀干しと水落ち	掘割の環境整備のため、年に一度掘割の水を空にして、堀底の掃除を行います。毎年2月中旬ごろに城堀水門を締め切り、城堀を空にする「水落ち」が行われており、2月下旬のお堀開き前の冬の風物詩となっています。
産物	柳川名物 いろいろ	柳川神棚	江戸時代より続く柳川独特の型の神棚で、仏壇の木地師が作り始めたといわれており、各所に仏壇の技法も見られます。また、福岡県伝統工芸品にも指定されています。
"		柳川まり	柳川の雛節句に欠かせない祝いの品です。
"		蒲池焼	江戸時代に幕府へ献上品や藩主御用の進上品を製作していた柳川藩の御用窯です。
"		い草製品 (畳表、花ござ)	筑後地方は古くからい草の産地でした。最近では機械織りのものが中心ですが、い草製品の生産は現在でも行われています。
"		さげもん	江戸末期から伝わるという柳川独特の雛飾り「さげもん」は、女の子の健やかな成長を願って飾られる手作りの吊りびなです。
"		うなぎの セイロむし	たれをまぶしたご飯とうなぎのかば焼をセイロに入れ、綿糸玉子を散らして蒸し上げた料理で、観光客にも人気の柳川名物です。
"		有明海のノリ(ノリの佃煮)	有明海は日本屈指のノリ生産地です。有明海のノリは、海水の豊富な栄養と適度に薄まった塩分濃度、日本一の干満差を利用した支柱式養殖で作られ、柔らかくておいしいため、最高級品とされます。
"		柳川鍋	ドジョウと笹掻きにしたゴボウを割下で煮て卵で閉じた鍋料理です。

産物		粕漬	有明海の豊富な海の幸を生かしたタイラギの貝柱や海茸の粕漬は、柳川らしい古くからの特産品です。
"		郷土菓子	上品なおまんじゅうや昔ながらのあめがたなど城下町らしい郷土伝来のお菓子がいくつかあります。
"		柳川凧	江戸時代から伝わる民芸品で、正月の縁起物にもなっています。
人物 ^(注2)	郷土ゆかりの人物	立花宗茂	永禄 10(1567)年、高橋紹運の子として生まれます。天正 9(1581)年、戸次道雪の婿養子となって立花城に入城、同 15(1589)年に豊臣秀吉の九州平定の折の功績によって柳川 9 万 887 石(後 13 万 2 千石余り)を拝領します。関が原の合戦に際して、秀吉への恩義から西軍に加わり、合戦後改易されますが、6 年の牢人生活を経て、将軍徳川秀忠により、奥州南郷に領知を与えられました。その後元和 6(1620)年、田中忠政の死去により、旧領柳川に再封されます。
"		田中吉政	天文 17(1548)年、近江の国に生まれた戦国武将です。豊臣秀吉の元で三河国・岡崎城主となります。関が原の合戦では東軍につき、石田三成を捕らえた功績などによって、筑後国 30 万石余りを与えられました。吉政はそれまでの柳川城を拡張し、五層の天守閣も吉政の頃に完成したと言われます。吉政は領内の道路を整備し、また「慶長本土居」と呼ばれる堤防を作り、その後の有明海干拓の起点となります。
"		安東省菴	元和 8(1622)年に柳川藩士安東親清の次男として、柳川城下の本小路 <small>ほんこうじ</small> に生まれました。松永尺五の門に入り、朱子学を学んでいましたが、20 代の後半、中国から長崎にきた儒学者・朱舜水 <small>しゆしゆんすい</small> を知り、舜水の人格や学識を敬愛した省菴は、不遇の舜水に自らの俸禄 200 石の半ばを送り続けて支援します。舜水によって朱子学以外にも目を開かれた省菴は、学問的により大きく深く成長します。省菴の教学は安東家や弟子たちに受け継がれ、その伝統の上に藩校伝習館が築かれています。
"		雲龍久吉	文政 5(1822)年に筑後国山門郡大和村(現柳川市)に生まれ、第十代横綱になりました。横綱土俵入「雲龍型」の創始者です。
"		北原白秋	水郷の風情を多くの作品に詠んだ北原白秋は、近代日本を代表する詩人です。感覚的な作風で、象徴主義の地平を切り開いた『邪宗門』や『思ひ出』を始め、だれもが子どもの頃に口ずさんだ童謡「ペチカ」「この道」など、詩、短歌、童謡、歌謡とあまたの作品を手がけ「国民詩人」と言われています。明治 18(1885)年、山門郡沖端村(現・柳川市沖端町)で、酒造りを営む北原長太郎・シケの長男として生まれました。

人物		海老名弾正	海老名弾正(1856~1937)は、筑後柳川藩士の家に生まれた明治・大正時代のキリスト教思想家で、同志社大学総長を歴任しました。
"		檀 一雄	檀一雄(1912~1976)は、『リツ子・その愛』『リツ子・その死』『火宅の人』などの作品で知られる直木賞作家です。
"		長谷 健	長谷 健(1904~1957)は、『あさくさの子供』で第9回芥川賞を受賞します。映画化された白秋を描いた小説『からたちの花』から観光柳川の扉が開かれたと言われています。
"		木村緑平	木村緑平(1888~1968)は、医者の傍ら、俳人として活動し、昭和38(1963)年に自由律俳句の最高賞「層雲文化賞」を受賞しています。

(注1) 柳川百選：市民の皆さんから柳川市内の大切にしたいもの、誇れるものを募集したところ、499人の方から延べ628点の応募があり、その中から柳川ならではのものが100点選ばれました。

(注2) 人物：郷土ゆかりの人物については、建物や史跡などの関連が多いため百選には入れず、それらの解説の中で記述されていますが、ここで新たに人物を追加しました。

3. 柳川市観光の現状

(1) 観光客数の推移

本市の観光客数は、「観光地点」による調査方法によって推計していますが、年間120万人と推定されます。ここでは、観光施設調査で集計した観光客数の推移（イベント参加者、食事目的の観光客数を除く）を示しました。これによると、本市の観光客は平成4年をピークに大きく減少しています。ピーク時に比べて平成19年は30%減となっています。御花、北原白秋生家・記念館の減少が大きく、宿泊者数も半減しています(図12)。

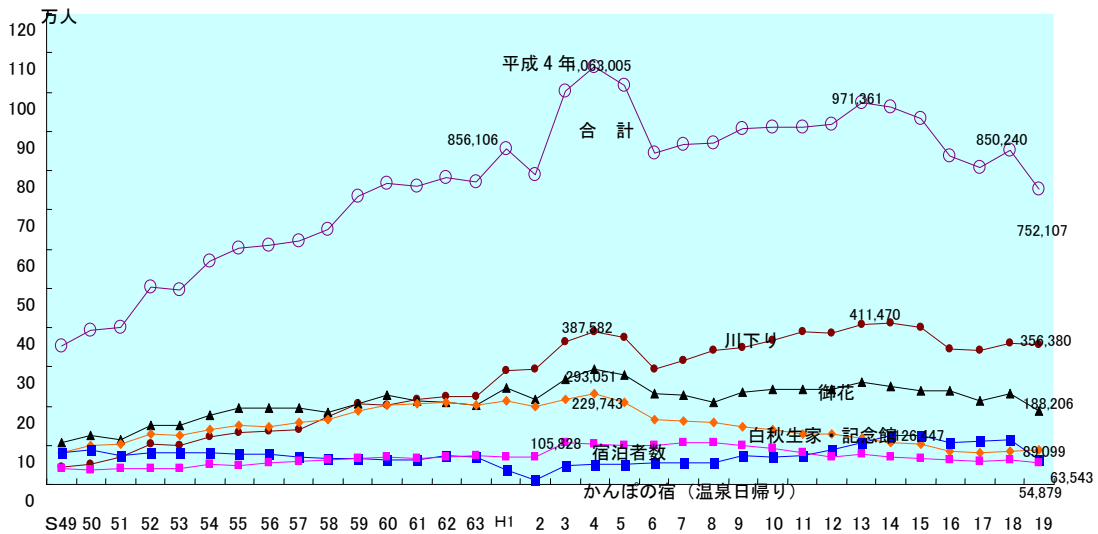


図12 主な観光施設の観光客数の推移

* 観光客の定義

観光目的の来訪客を狭義の観光客、親戚訪問、買物目的を含めたものを広義の観光客とします。ここでの観光客は広義の観光客を指します。

(2) 観光調査
1) 調査方法

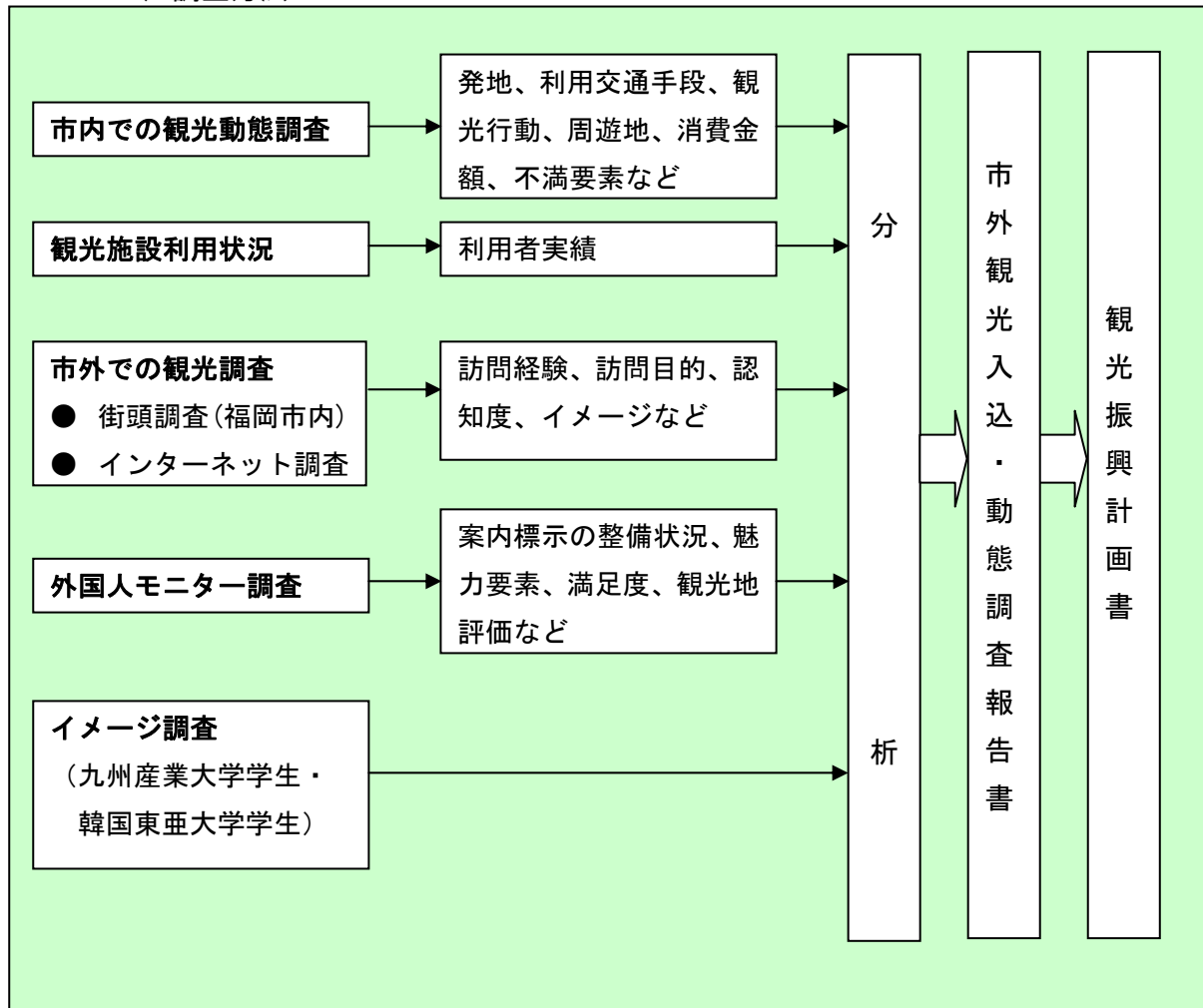


図 13 調査方法の体系

2) 観光調査の結果

市内での観光客動態調査

- 調査時期：平成 20 年 3 月、5 月、8 月、10 月、11 月
- 調査方法：アンケート調査票による聞き取り
- サンプル数：1,433

【主な内容】

※端数処理のため合計が 100%にならないことがあります

	要点	内訳			
		男性	45.8%	女性	54.2%
性別	女性が 54.2%				
年齢層	50 歳以上 51.5%	20 歳未満	2.5%	20 代	15.5%
		30 代	15.8%	40 代	14.7%
		50 代	24.8%	60 代	19.3%
		70 歳以上	7.4%		
居住地	福岡県内 52.0% 九州・沖縄圏内 72.0%	福岡市内	26.9%	福岡県内	25.1%
		九州・沖縄圏内	20.1%	九州・沖縄圏外	27.8%
		外国	0.2%		

同行人数	1~4人 77.6% 1~9人 92.8%	1人 6.4% 3人 16.5%	2人 46.6% 4人以上 30.5%
同伴者	家族(夫婦、親、子ども、 祖父母) 61.8%	個人 7.1% 親 12.2% 友人・知人 24.1%	夫婦 35.2% 子ども 12.3% 彼氏・彼女 7.1%
旅行形態	個人旅行 83.9%	個人旅行 83.9%	パック旅行 10.1% 日帰りバスツアー 3.5% その他 2.6%
訪問回数	リピーター 57.4%	初めて 42.6% 3回目 12.6%	2回目 18.0% 4回以上 26.8%
訪問理由	「川下り」「祭り・イベント」「食 事」「まち歩き」の順	川下り 31.0% 食事 25.2%	祭り・イベント 28.5% まち歩き 14.7%
訪問箇所	「御花」「川下り」「北原白秋生 家」に集中	御花 58.3% 北原白秋生家・記念館 28.6%	川下り 39.3%
情報源	【旅行前】 口コミ 31.3%	以前に訪れ知っていた 友人・知人の話 テレビ・ラジオ 旅行雑誌・ガイドブック 家族・親戚の話	19.0% 17.8% 13.2% 12.8% 12.4%
	【旅行中】 市提供の観光情報 34.1%	特にな 柳川市発行のリーフレット等 旅行雑誌・ガイドブック 観光案内所 観光案内版	40.4% 14.2% 14.0% 12.6% 7.3%
交通手段	【柳川市まで】 主な交通手段は 「自家用車」と「西鉄電車」	自家用車 西鉄電車	42.7% 34.0%
	【市内で】 市内では「歩き」 58.1%	歩き 自家用車 貸切バス	58.1% 23.5% 12.7%
立ち寄り	【往路】 周遊型 29.2% (福岡県内が74.7%)	直接きた 太宰府天満宮 その他福岡県 別府	70.8% 4.0% 2.8% 2.5%
	【復路】 周遊型 30.5% (福岡県内が70.2%)	このまま帰宅 福岡市 太宰府天満宮 その他福岡県 長崎市	69.5% 10.3% 5.9% 3.0% 2.1%
不満要素	不満は、「交通情報」、「案内情 報の不足」と「川の汚れ」	駐車場が不足 市内の案内標示が少ない 川が汚れている 柳川全体の交通案内が少ない	13.6% 9.4% 6.9% 6.5%
満足度 (やや満足と満足 を合わせた割合)	満足度が50%以上の項目は 2項目	食事 観光施設、まちの人たちのおもてなし 観光施設やその内容 旅行中の移動 みやげ品 当地までの案内看板等の整備状況 当地での観光情報収集	59.2% 54.2% 42.6% 37.3% 37.2% 36.4% 35.0%

街頭・インターネットアンケート調査

街頭調査	インターネット調査
<p>1. 対象者 JR 博多駅筑紫口と西鉄天神駅周辺の通行人</p> <p>2. 調査方法 アンケート調査票による聞き取り</p> <p>3. 調査期間 平成 20 年 6 月 28 日(土)～6 月 29 日(日)</p> <p>4. サンプル数 天神 153 サンプル 博多 151 サンプル 合計 304 サンプル</p>	<p>1. 対象者 ○関東圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、群馬県、茨城県、栃木県）、 ○関西圏（大阪府、兵庫県、京都府、奈良県、滋賀県、和歌山県）、 ○九州居住者</p> <p>2. 調査方法 インターネットによるアンケート調査</p> <p>3. 調査期間 平成 20 年 7 月 10 日(木)～14 日(月)</p> <p>4. 回収結果 ①関東圏 100 サンプル ②関西圏 100 サンプル ③九州 200 サンプル</p>

【主な内容】

		街頭調査(304)	インターネット調査(400)
属性			
	性別	男性 45.1% 女性 54.9%	男性 53.3% 女性 46.7%
	年齢	20 代 40.5% 10 代 4.8%	30 代 36.0% 40 代 31.0%
	居住地	福岡県 84.2%	福岡県 25.3% 大阪府 11.8% 東京都 8.0%
訪問経験有無		ある 49.0% 天神(46.4%)、博多(51.7%) 福岡県(52.2%)	ある 37.8% 佐賀県(84.6%)、福岡県(77.2%)、 京都府(37.6%)、群馬県(20.0%)
有	目的	観光 43.9% うなぎを食べに 23.0% 川下り 12.2% 祭り・イベント 11.5%	観光 63.8% うなぎを食べに 40.1% 川下り 20.4% 訪れたい観光名所・施設 7.9%
	観光魅力	魅力的 71.8% 若い年代ほど低い(10 代:“どちらでもない”(40.0%)	魅力的 66.2%
無	認知度(柳川観光)	知っている 70.1% (天神 63.4%、博多 75.3%)	知っている 54.0% (九州 77.8%、関東 45.8%、関西 42.5%)
	柳川情報に接する機会	全く見聞きしていない 63.2% (天神 71.3%、博多 54.2%)	全く見聞きしていない 38.8% (九州 28.6%、関西 44.1%、関東 47.7%)
	訪問意向	行ってみたい 47.3% (天神 43.2% 博多 52.1%) (50 代 83.4% 30 代 63.7% 20 代 50.7% 10 代 11.1%)	行ってみたい 49.6% (九州 69.4%、関西 40.0%、関東 42.7%)

イメージ	川下り 60.1% うなぎ 51.0% 水郷 17.8% 北原白秋 15.8% 癒し・落ち着き 10.1% 御花・松濤園 8.1% 自然や田舎が美しい 8.1% 城下町 7.0% さげもん祭りなど 7.0%	川下り 50.2% うなぎ 46.0% 水郷 44.5% 北原白秋 21.5% 城下町 15.5% 柳の景観 15.0% 情緒がある 14.5% 自然や田舎が美しい 12.0% 遠い場所 11.8% 御花・松濤園 10.5% さげもん祭りなど 9.8% よくわからない 25.5%
天神からのアクセス	知っている 46.5% (天神 41.1% 博多 52.0%)	知っている 27.0% (佐賀県 76.9%、福岡県 57.4%、 長崎県 50.0%)

【街頭・インターネットアンケート調査結果の要約】

- 柳川の知名度は全国的
- 観光目的は“うなぎを食べに” が最も多い
- インターネット利用者の訪問率が高く、柳川観光に関する情報はインターネットが有効
- “うなぎを食べに” の目的が多い10代、20代の観光満足度が相対的に低い
- 柳川に対するイメージは、全国的に“川下り”、“うなぎ”が強い。関東、関西居住者には“水郷”のイメージも強い
- 訪問経験がない回答者の訪問意向は約5割
- 天神での柳川観光情報が不足
- 天神からのアクセスが充分認知されていない

外国人モニター調査 (韓国人留学生5人、中国人留学生4人)

- 標識や案内板：わかりやすかったが、ほとんど日本語と英語だったので、他の言葉も設置してほしい。
- 掘割周囲の景観：都会では感じられない緑豊かな自然で癒された。田園風景に囲まれた水辺環境が素晴らしい。
- 船頭さんの説明：面白くて素晴らしいが、歴史なので言葉が難しく、わからなかった。
- 川下りをした後の提案：船頭さんの説明が外国人にもわかるように説明書のようなものを舟に乗る前に配ってほしい。そうしないと70分間は長すぎ。
- 沖端商店街の標識もなく、バス停までの案内もなかった。
- お土産：懐かしい感じの店が多くあったが、買いたいものがなかった。
- 御花、北原白秋生家などがあって文化の香りが漂った。そしてうなぎ屋の看板が良い雰囲気を出していた。
- 大きな道ではないのに車が通るので、落ち着かなかった。

柳川観光のイメージ調査 (日本人学生 29 人、韓国人学生 24 人)

- 日本人学生の「行ったことがある」の割合は 55%
- 韓国人学生の「行ったことがある」割合は 0%
- 訪問したことがある学生の訪問目的は「観光」が 56.4%、「親戚・知り合い訪問」が 37.5%
- 訪問したことがない学生の柳川観光の認知度は日本人 46.2%、韓国人 56.6%
- 訪問したことがない学生の訪問希望は日本人 75.0%、韓国人 79.2%
- 訪問の有無に関係なく、観光前の柳川観光のイメージは
日本人学生は「川下り」「うなぎ」、
韓国人学生は「川下り」「自然や田舎が美しい」が最も強い
- 韓国人学生の観光後の観光魅力に関する評価は観光前より高い
- 韓国人学生の観光後のイメージは「川下り」「うなぎ」「自然・田舎が美しい」「歴史がある」の順である。

(3) 柳川の観光の特徴

本市の観光の特徴は、市内アンケート調査と街頭、インターネットアンケート調査及び外国人モニター調査の結果から、以下のような特徴がみられます。

特徴 1	観光客の居住地は、福岡県内からが全体の約 50%、九州圏外からも全体の約 27%を占め、マーケットが全国である
特徴 2	あらゆる世代が訪れているが、50 歳以上が約半数を占めている
特徴 3	家族旅行客が 6 割以上と多い
特徴 4	繰り返し訪れる観光客が多く、再来訪意識が高い
特徴 5	時季的な変動が大きい（春・秋季が多く、夏・冬季が少ない）
特徴 6	福岡都市圏からの日帰り観光地としての性格が強い
特徴 7	訪問目的が「川下り」「祭り・イベント」「食事」に限定され、滞在時間が 3-4 時間と短い
特徴 8	外国人旅行者にも「自然」「まち並み」「川下り」「食」に対する評価が高い

(4) 環境分析

ここでは、第2章と第3章での「柳川観光を取り巻く状況」の分析を基に、本市観光の特色について「SWOT分析」という手法を用いて、本市観光の「外部環境」と「内部環境」を強み(S=strengths)、弱み(W=weaknesses)、機会(O=opportunities)、脅威(T=threats) 4つの項目により整理を行いました。

	内部環境	外部環境
ブ ラ ス 要 因	強み (Strengths) <ol style="list-style-type: none"> ① 全国的な知名度がある ② 川下り、うなぎなどの集客力のある地域ブランドが存在する ③ 福岡都市圏から近い ④ お寺、武家屋敷、文人たちのふるさとなど歴史、文化資源が多く、今後の取り組みによっては集客が期待できる地域資源が存在する ⑤ 観光客のニーズ（癒し志向）に適合する水郷のイメージがある ⑥ 食材が豊富である ⑦ 年中行事が盛んである 	機会 (Opportunities) <ol style="list-style-type: none"> ① 有明海沿岸道路（現在一部開通）平成21年春 矢部川大橋開通のため大川市、柳川市、大牟田市が短時間で結ばれる ② みやま柳川 IC（九州自動車道の八女 IC と南関 IC の間）平成21年春に完成し、高速道路からのアクセスが良くなる ③ 国道443号バイパス 平成24年春に開通予定で、みやま柳川 IC へのアクセスが良くなる ④ 国道385号バイパス 平成23年春に開通予定である ⑤ 九州新幹線 平成23年春、博多～新八代間が開通する予定で、最寄り駅の筑後船小屋駅も完成し新幹線でのアクセスが良くなる ⑥ “癒し”、“安らぎ”を求める観光客の増加 ⑦ アジアからの来訪者の増加 ⑧ 国の観光振興策 ⑨ 九州観光推進機構との連携
マ イ ナ ス 要 因	弱み (Weaknesses) <ol style="list-style-type: none"> ① 新しい観光資源を開発する取り組みが弱く、一部の観光資源に偏りがみられる ② 市内をスムーズに移動できる手段が不足している ③ “食”の種類が少ない ④ 観光客の視点が入り入れられていない ⑤ 観光振興に対する市民の意識が低く、観光推進体制も充分とは言えない ⑥ 情報発信が不十分である 	脅威 (Threats) <ol style="list-style-type: none"> ① 景気の低迷 ② 国内・外の観光地間競争の激化 ③ 観光市場規模の縮小 ④ 旅行費用の減少

4. 柳川市観光の課題

本市には、掘割や有明海をはじめとする自然、御花、北原白秋、お寺、武家屋敷などの観光素材が豊富にありながら、観光資源という視点で十分捉えられておらず、面的に整備されていないのが現状です。

市民や商工業者による種々の取り組みや活動も活発になされていますが、次のような問題点がみられます。

【問題点】

- 川下り、沖端地区が中心で市内周遊ルートが確立されていない。
- 体験メニューが乏しい。
- 水郷のイメージが強いのに対し、水がきれいではない。
- “うなぎ食”以外の食の認知度が低い。
- 駅から沖端までの公共交通機関の利便性が低い。
- ゆったりくつろげる場所が少ない。
- 川下りの季節・時間的制約がある。
- 観光活動に関する市民への情報提供が不十分である。
- 市民に観光への理解やもてなしの意識が不十分である。
- 案内標識などの情報提供が不十分である。
- 観光に関する活動団体間の連携が不十分である。
- 日帰り客及びリピーターは多いが、消費の拡大につながりにくい。

本市の観光状況と問題点を踏まえ、観光振興の課題として以下の事項が挙げられます。

<課題1>

柳川ブランドの創出

- ◇ 食の多様化
- ◇ 土産品の開発
- ◇ 川下りの楽しみ方の創出

<課題2>

観光資源の魅力向上と地域の一体的な観光地域づくり

- ◇ テーマによる観光資源の結びつきや活動メニューの開発
- ◇ 水郷柳川の景観統一
- ◇ 観光素材の発掘

<課題3>

観光行動に対応した受け入れ環境の整備・充実

- ◇ まち歩きのためのルートづくり、案内、トイレ、休憩施設などの環境整備
- ◇ 公共交通機関の利便性向上

<課題4>

積極的な観光情報の発信・受信とPRの充実

- ◇ 目的に応じた的確で適時のわかりやすい情報の提供と発信
- ◇ 本市の観光ホームページなどを活用した観光情報の充実
- ◇ 観光客のニーズをキャッチし、共有できる体制づくり

<課題5>

市民参画型の観光振興

- ◇ 市民参画の仕組みづくり
- ◇ 市民協働による観光振興の推進

<課題6>

観光振興推進のための体制づくり

- ◇ 情報管理の一元化体制づくり
- ◇ 観光協会の体制強化
- ◇ 活動団体の連携体制の確立
- ◇ まちの活性化、経済効果につなげていく仕組みづくり

<課題7>

広域観光連携の推進

- ◇ 近隣の市町村や地域、観光事業者などとの連携による広域の観光ルートづくり
- ◇ 広域の誘客宣伝活動の推進

<課題8>

外国人観光客の誘致

- ◇ 海外向けの積極的な広報宣伝活動の推進
- ◇ 外国語による観光情報の提供
- ◇ 不自由なく一人歩きできる受入態勢の整備